慶應義塾 醫学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64956
会員については会費に購読料が含まれる
毎月　1回　20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話＝（3353）1211（大代表）

第74回 北里記念式典挙行

北里賞　柚﨑通介（生理学教室）
北島賞　桑名正隆（先端医学研究所）

受賞者業績講演会も併せ実施

六月十一日午後一時、恒例の北里記念式典が北里講堂において挙行された。式典は北里家を代表して北里一郎氏が参加していた。又三田からは工藤常任理事、医学部執行部は北島医学部長、相川病院長が出席、三四会を代表して末舛会長の顔ぶれも見られた。それぞれの来賓の挨拶に引き続き三四会賞の授与が行われ、式典終了後受賞者講演会が引き続き行われた。

式典において工藤常任理事は次の様に述べた。

北里先生が福澤先生の言われた独立自尊の心を医療の領域で果された。つまり国民の医療レベル向上につくされ、身を以て世の為人の為につくすことを実行されていた。又医学部を設立し人材を世に送り出し、医学研究の面でも徒に細分化に向うことなく総合の力を国民医療のレベルアップを目指された。慶應義塾は一五〇周年を迎えるが、医学部においては医学医療の先導者たるべき人材が輩出し世界に通ずる慶應医学の発展を目指してもらいたい。次いで挨拶に立った北島医学部長は、『十九～二十世紀の北里先生の過ごされた姿は、学問研究を学者の道楽とすることなく、世の為人の為に有意義な方向を目指されていた。つまり生命科学の原点を追求することは即ち悩める人につくすことと同義語とされていた。この伝統の下にある慶應医学に学び、建学の精神を継承して北里先生の心である基礎と臨床を総合した医療を発展させるべきである』ことを強調し本日の受賞者の業績は正にその精神が生かされたものであると評価していた。

最後に挨拶としての言葉を述べた北里一郎氏は、『祖父の柴三郎が欧州より一書生としての帰国し不遇の時に福澤先生から物心両面にわたっての支援を賜ったことを感謝すると共に、私立の研究所（養生園のこと）が官立に移行にあたっても自主性精神についての助言をうけた。一九一四年十月十四日、結局は当時の内務省から文部省への移管が実現。柴三郎は福澤先生の助言の様に官よりの圧迫で自主性維持不能と判断し五日後に去った。それは新たな自らの目指す自主性ある医学の考えをすすめる所にあったし福澤先生の指導された所でありそれが今日の慶應医学へのはじめであった』ことを述べ、本日受賞の二名の業績は正に福澤・北里の心を継承した業績であると結んでいた。

挨拶する工藤敏和常任理事

末舛会長による三四会賞の授与

論壇

医療安全における大学病院の役割

飯田修平

安全確保は社会の要請である

医療事故の報道が、新聞やテレビをにぎわしている。医療事故は単に、医療界だけの問題ではなく、社会問題となっている。医療界をあげて、この問題に対処しない限り、信頼を得ることはできない。医療事故防止は社会の強い要請である。筆者は、社会の要請に応えるべく、実務者として現場から、練馬総合病院院長あるいは東京都病院協会・全日本病院協会の役員として、質向上に基づく安全確保の仕組みつくりを展開している。

事故の発生と未然防止

医療事故が急増したのではなく、技術と機器の高度化・複雑化・広域化・高速化により、いままでは不可能であったこと（適応ではなかった状態の患者の治療）まで可能になったことによって、大事故（薬害・汚染など）や大災害を引き起こしているのである。

事故は起こってはならないという精神論では、事故はなくならない。人は間違える生き物である（To Err is Human）。また、人は他人の失敗からは学べない。自分は大丈夫と思いこんでいる。自分が痛い思いをしなければ学べないのである。また、自分が失敗しても喉元過ぎれば熱さを忘れる。状況は絶えず変化する。だから、歴史は繰り返し、事故や災害がなくならないのである。

事故・災害対策としてだけではなく、教育（職員の質）の問題、組織管理の質の問題として検討することが必要である。全職員が柔軟な対応、発想の転換をしない限り、未然防止はできない。

事故防止から安全確保の観点へ

事故の未然防止が重要なことは論を待たないが、事故発生後の対応が重要な課題である。すなわち、事後対応の悪さ等に起因するトップの交代あるいは特定機能病院取り消し等、組織基盤を揺るがす事態が生じている。リスク・マネジメントが重要である所以である。

医療界では、リスク・マネジメントとセイフティ・マネジメントが混同されている。リスク・マネジメントの目的は組織防衛であり、セイフティ・マネジメントの目的は患者および医療者の安全確保である。

医療事故防止対策とする限り、医療事故を防止することは困難である。医療の安全確保という観点が必要である。安全確保のためには、医療事故を防止する・なくす、すなわち、マイナスをなくす・ゼロにする（回復する）という観点ではなく、むしろ、より積極的に、プラスにする・質を向上するという努力が基本であり、必須である。すなわち、悪い結果が出てから対応するのではなく、悪い結果が出ないように、更には、良い結果を導くための方策を計画・企画の段階から検討し、業務のしくみ（プロセス）に落とし込まなければならない。

総合的質経営の勧め

多くの組織・病院が、安全対策、事故防止対策をそれぞれ実施あるいは検討している。しかし、その努力に見合った成果は挙げていない。対策委員会を設置するだけという形式主義であること、また、個別の問題として対応していることが原因である。安全確保は組織管理の要であり、組織を挙げて取り組む必要がある。品質管理の考え方や手法が有効である。また、効率的かつ効果的な取組みにするためには、品質管理の実務者・研究者、病院経営実務者・研究者が協力して検討することが重要である。その基本は、総合的質経営（TQM：Total Quality management）である。

塾大学病院および三四会の役割

診断・治療における新しい知見の開発や成績の向上は大学病院の大きな役割である。″医療の安全確保″に関しても大学病院の果たす役割は大きい。むしろ、大きな期待が寄せられている。いまこそ、何らかの対応を実施し、その成果を示さなければ、大きな期待が失望と不信の増強に繋がるのではないかと危惧するものである。

大学病院は、組織構造が複雑、人事異動が極めて頻繁、責任と権限が明確に規定し難い、という特徴がある。しかし、それだからこそより一層、安全確保の仕組みが必要であろう。

塾大学病院を中心とする三四会から、医療界および社会に成果を示したいものである。

（練馬総合病院　院長　外50回）

三四会定例理事会
—平成17年5月24日—

報告事項

一、三四会十六年度決算報告
二、赤倉山荘十六年度収支報告
三、新役員（評議員会への報告資料として）

協議事項

一、平成十七年度の予算案について
名簿発行年のため、発行に要する予算を考慮すること
二、三四会評議員会は例年通り新棟十一階大会議室にて開催予定
三、任期満了に伴い新任の評議員による役割分担は別途定める。
四、三四会奨励賞タイムスケジュールは、ほぼ例年通りとし六月十一日開催の三四会評議員会でその説明を行う。
五、名簿発行に関し、個人情報保護について各会員の意向調査を実施中
六、その他
㈠ホームページに施設の名称、所在は入力しない。
㈡会員未納者の扱いは未納期間五年の間に三回催促してノーアンサーの場合は失権となる。
㈢三四会としての取引銀行は安全と業務の能率を考慮してきめる。

会員消息

【異動】
秦　順一（名誉教授　病　45回）
国立成育医療センター総長
—17・4・1付—

三四会評議員会開催

役員改選による新執行部を承認

北里記念式典終了後午後三時から三四会評議員会が新棟十一階大会議室で開催された。本年は会長以下役員改選の年にあたり、新役員の候補者名が発表され承認をみた。なお新会長としては比企能樹（北里大学名誉教授　外37回）が承認された。

比企能樹 新会長のことば

あと十年で三四会は創設一〇〇年を迎える。その歴史ある慶應義塾大学の同窓会すなわち三四会の会長にとご指名を受け、私は重責を考え緊張で震えを覚えざるを得ない。分厚い三四会名簿に、歴代会長のお名前が初代北里柴三郎先生から前末舛恵一先生まで眩しいまでに並んでいる。頁を繰りながら、この大きな組織の一一代目会長として、私に責務を果たせるだろうかと自問をしている。

三四会の会則をみると、その目的として『本医学部と密接な連携を保ち、医学医術の研鑽に勤め、親睦、福澤、北里両先生建学の訓えを体して慶應医学の隆盛発展に寄与する…』とある。

現在多くの本会員諸侯が学内また学外において、母校医学部を念頭に置きつつ医療の発展に寄与されている。街中で三色を染めた看板を上げておられる方々も多いし、国内外の学会で発表されるスライドにも三色が誇らしく付いていることからも、母校という枠に連なりながら日々精進されているであろうことが推し量られる。本会員個々の発展はすなわち本医学部の発展であることを改めて認識している。本会員と本医学部との連携を図るには、三四会をより強固な信頼できる架け橋とするべく、整備をしていかねばならないと考える。

人々の親睦を図る手段と形態が、近年大きく変貌しつつある。例えば他人とコミュニケーションを持つには、コンピューターを駆使した伝達技術の革新や様々な多量の情報が瞬時に行き交う技術発展により、恐るべき速さと広がりをもった。それは数年前に比べ比較に成らないほど便利になり、PC画面の前に座れば、直ぐさまあらゆる情報が得られ、相互の意見や報告も手軽に出来る。確かに便利にはなったが、他方では組織や個人の情報漏洩が起り、PCによる事故や犯罪も多発している。それもたった指一本で操作されるという恐怖はとめどない。かくして情報を伝達する側は、細心の注意を要するものである。

一般社会でアナログを用いた情報の交換や意見の開陳は少なくなり、学会発表もPCを用いた媒体でしか受付けないようになった。特に若い世代はITの情報を優先する。従って三四会においても、いずれはITを用いて相互交流を促進しなければならない時が到来すると思われる。そうは言っても高齢化社会になった今日、どうしてもコンピューターに馴染めない先輩会員が多い事も事実である。歳を重ねるに従い、益々母校への思いや仲間との連携を求めることも忘れてはならない。これまで高品質の医学部新聞が発刊されていたので、どのように情報を会員各位に配信するか、論議を重ねなければならないと考える。

新時代を睨まれた末舛前会長は、三四会役員の若返りを策案され次世代へとバトンを渡された。その結果理事の平均年齢六十四歳から五十八歳へと六年若返った。その中で年寄の私が会長に指名されたのは、新世代と旧世代との融合を模索せよとの意味ではないかと思う。私は古い皮袋に新しい酒を入れる心境で、新旧の手段を駆使して親睦を図っていこうと考えている。

会員相互の新しい連携を密にするためには、支部会の充実と発展が必須で、本会の地盤としての支部再構築強化が急がれる。幸い昨年、末舛前会長の肝いりで全国支部長会議が開催され、その機運がスタートしたが今後理事会として、各支部の在り方を含めた整備を進め、毎年秋には支部長会議を開催し、更なる連携を絶やさないように、各支部からのご意見を伺っていきたい所存である。

三四会の運営は多岐に亘り、これまで理事、評議員諸侯が分担して仕事をし、本会を支えてきた。今後も新役員には役割分担して頂くのだが、我々に課せられた任務は多様かつ膨大なので、必要な領域には役員を核にした強力な委員会組織を設定し、業務を滞りなく迅速かつ円滑に行って頂くことも考えている。

何はともあれお互いの親睦を深め、母校の発展に寄与するという柱を貫こうと思うが、二〇〇八年には慶應義塾創立一五〇年、二〇一七年には医学部の一〇〇年という大きな節目の年を目前に控えている。歴史と伝統を担っている三四会員諸侯にとって、その行事に関ることで更なる誇りと受け取られるものと考える。従って三四会も心を一にして、将来の本会と医学部・病院を支えていくことが肝要ではなかろうか。

会長就任に当たり、皆様の一層のご協力を心からお願い申し上げる次第であります。

新三四会役員名簿

役員	氏名	卒業回数
会長	比企　能樹	37
副会長	吉野　肇一 ◆	44
副会長	村井　勝 ○	46
副会長	菅沼安嬉子 ◆	47
理事	櫻井　秀也 ○	41
理事	古平金次郎 ◆	42
理事	川城　丈夫 （関連病院会）	45
理事	亀井修一郎 ◆	46
理事	池田美智子 ◆	47
理事	御子柴克彦 ○	48
理事	小川　聡 （慶應病院）	49
理事	鹿島　晴雄 ◆	49
理事	相磯　貞和 （慶應医学部）	55
理事	中谷比呂樹 ○	56
理事	末岡　浩 ○	59
理事	坪田　一男 ◆	59
理事	リー　啓子 ○	60
理事	末松　誠 ◆	62
理事	近藤　太郎 ◆	63
理事	古畑　清和 ◆	63
理事	渡辺　真純 ◆	64
理事	中川　種昭 ◆	64相当
理事	古川　俊治 ◆	66
理事	宮川　義隆 ◆	70
監事	矢部　裕 ◆	36
監事	山本　修三 ○	38
監事	森川　武二 ◆	43
評議員議長	渡辺　英伸 ◆	34
評議員副議長	山田　[illegible] ◆	42

○会長推薦　◆評議員

落穂

評議員会に出席して

今年は三四会役員改選の年にあたる。六月十一日開催の評議員会において新役員の発表があり、又新会長の抱負も報道されている。

三四会員からの委託を受けている役員各位は、担当業務の実施にあたり三四会員にとってプラスする方向を意識すべきは当然である。所謂有力者間の諸事情を優先したり、政官界に横行する権謀術数により役員相互の利害関係調整が先行する様な会務運営は厳にいましめねばならない。

更に会務執行の成果に対する評価についても執行部自身のみで判定する様な驕慢さは邪道であることを銘記すべきであろう。

評議員会は各地三四会の代表者である評議員による三四会運営上の決定機能を持つ会議である。だが会議内容の解説資料として当日渡される印刷物を見て、直ちに理解し得るか否かには疑問を感ずる。更に議事進行にあたって、事前に充分検討済みの内容を各担当役員が報告するのと同様に参会した評議会が議案内容を理解し検討を加え疑問点を見出し新たな提案を発議することが容易か否かは自明の理である。

従って当日の会議内容を参会の評議員が各地三四会へ持ち帰り、現地の会員に報告し説明することは、日頃から執行部と交流関係のある会員は兎も角、一般的にはかなり無理があるのではあるまいか。

これと類似の執行部独走ケースとして、昨年十月二日、三四会員のまとまり強化を目的に開催された『全国支部長会議』の場合、事前準備としてアンケート調査を行っていたものの、会議自体は形式的ないし儀礼的な挨拶に終始し、建設的内容乏しいまま終了した。又その後において執行部による具体的な『まとまり強化策』は示されておらず、本会終了後の継続的発言も殆ど聞かれていない。もっともその顛末を単なる執行部による一イベントとしてのみの報道をした医学部新聞の記事にも問題がある。もっと会員の視点からの意見や批判を加えた報道をすべきだったし、三四会員に対する三四会機関紙による報道としては明らかに怠慢であったといえる。

官権による支配を好まず人の為世の為の医療を求めた北里先生は、又同門の人々の協力による学問研究こそが医学の進歩に通ずることを教えられた。『北里の教え』を意識する三四会員としては会員の相互理解の進展に役立ち、より身近な機構としての三四会のあるべき姿を再考し、会員のチエを結集した組織へ前進させたいものではある。（P）

平成十七年度
三四会員が会長担当の定例学術集会

—七月以降開催の集会—

（日本学術会議又はそれに準ずる学術集会。但し支部会は含まない）

学会名
一、会長名
所属
二、会期
三、（開催地）会場

第78回日本内分泌学会学術総会
一、高見　博（外　49回）
帝京大学医学部外科教授
二、七月一日～二日
三、（東京）京王プラザホテル

第9回基盤的癌免疫研究会総会
一、河上　裕（内　59回）
先端医科学研究所教授
二、七月十四～十五日
三、慶應義塾大学三田キャンパス、北館ホール

三四会奨励賞の推薦について

推薦要領

目的

若手の三四会会員の研究を奨励し、実学としての慶應医学の発展を図ります。

対象

一、次の各分野ですぐれた実績をあげた三四会正会員（本塾関連病院のみでなく、研究施設他大学、地域等で業績をあげている三四会員も含む）
二、対象となる分野
イ、臨床医学
ロ、基礎医学
ハ、地域医療、社会貢献または三四会活動等
三、臨床医学、基礎医学分野においては満四十歳以下、地域医療、社会貢献または三四会活動等の分野においては、原則として満四十五歳以下となります。

推薦方法

一、推薦者は、三四会役員、三四会支部長、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授および慶應義塾大学関連病院長とします。
二、推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会奨励賞推薦状）により候補者を推薦して下さい。
三、推薦締切りは平成十七年八月二十五日（木）必着、三四会事務局宛とします。
四、提出部数は、推薦状、論文別刷（学術集会発表の場合はそれを証明するコピーと八〇〇字程度の抄録）、地域医療・社会貢献・三四会活動等においては、それを証明する資料、ともにコピー十部が必要です。
五、対象となる研究が共著論文の場合は共著者の承諾書が必要となります。

選考ならびに授賞

三四会奨励賞選考委員会による厳正な選考の結果、約十名程度の受賞者を決定します。受賞者は平成十七年十一月十一日に予定されている慶應医学会総会で表彰され、賞状および副賞が授与されます。

事務局

〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部三四会事務局
TEL 03－5363－3735（ダイヤルイン）
FAX 03－3358－0664

北島政樹医学部長（外 45回）

国際胃癌学会会長に決まる

第六回国際胃癌学会が、外科学北島政樹教授（45回）の主催で、平成十七年五月四日から七日まで神奈川県のパシフィコ横浜で開催された。国際胃癌学会（International Gastric Cancer Association）は、平成七年三月に設立され、第一回国際胃癌学会は、同年、京都で故西満正会長のもとで開催された。その後、ドイツ、韓国、米国、イタリアで二年ごとに開催されたが、平成十三年五月、ニューヨークでのIGCA理事会の席上、第六回学会を平成十七年に日本で開催することが決定された。

（関連記事2面へ）

慶應医学会例会

下記のとおり例会を開催いたしますので、ふるってご来聴くださいますようお願い申し上げます。

記

日　時　平成17年7月8日（金）午後5時
場　所　総合医科学研究棟　会議室6
演　題　"Issues in early intervention and recovery from first - episode psychosis"
演　者　Eric YH Chen,M.D.MRC Psych,
Department of Psychiatry,Faculty of Medicine,
University of Hong Kong,Hong Kong,China
担　当　精神神経科学教室
責任者：鹿島　晴雄　教授
担　当：水野　雅文　先生（内線62454）

主　催　慶應医学会　　共　催　慶應医師会
The Keio Journal of Medicine

慶應医学会例会

下記のとおり例会を開催いたしますので、ふるってご来聴くださいますようお願い申し上げます。

記

日　時　平成17年7月13日（木）午後5時
場　所　総合医科学研究棟6階会議室6
演　題　"Specific immune recognition of tumor-associated antigens by T cells"
演　者　1）DrewM.Pardoll,PhD.
Department of Oncology,
The John Hopkins University School of Medicine,
Baltimore,Maryland,USA
2）Suzanne L.Topalian,M.D.
Senior Investigator,
Surgery Branch,NCI,NIH CRC,
Bethesda,Maryland,USA
担　当　先端医科学研究所教室
責任者：河上　裕　教授
担　当：塚本　真　先生（内線62708）

主　催　慶應医学会　　共　催　慶應医師会
The Keio Journal of Medicine

平成17年度予算(案)

三四会

収入の部	(単位:円)	支出の部	(単位:円)
1. 会費収入	52,664,000	1. 事業費	41,500,000
郵便振込分　5,800名	46,400,000	三四会賞北里賞関係費(春・秋)	4,000,000
信濃町勤務分　689名	5,512,000	名簿刊行費	11,000,000
新入会員分　94名	752,000	名簿送料	4,000,000
2. 入会金(94回生・特)	752,000	会報発行費(新聞人件費含む)	9,500,000
3. 新聞購読費	200,000	会報送料費	5,000,000
4. 刊行物収入	2,800,000	広報費(ホームページ運用管理費)	4,000,000
名簿代	300,000	広報費(ホームページソフト更新費)	1,000,000
広告代	2,500,000	生涯教育研修セミナー	500,000
5.その他収入	3,000	海外研究者との交流費	500,000
受取利息	3,000	学生後援費	500,000
雑収入	0	その他の事業関係費	1,500,000
		2. 会議費	1,600,000
		役員会費	600,000
		支部会議費	1,000,000
		3. 事務費	13,250,000
		給料手当	4,300,000
		福利費	600,000
		交通費	200,000
		支払手数料	450,000
		備品費	800,000
		事務機器リース料	150,000
		消耗品費	500,000
		印刷費	500,000
		通信費	1,400,000
		図書費	0
		業務委託費	2,500,000
		支払報酬	850,000
		雑費	1,000,000
		4. 退職積立金	100,000
		5. 赤倉山荘特別会計繰入金	1,200,000
		6. 予備費	1,500,000
収入予算小計	56,519,000	支出予算小計	59,150,000
前年度繰越資金	91,003,011	翌年度繰越資金	88,372,011
合計	¥147,522,011	合計	¥147,522,011

平成16年度 収支決算内訳

平成17年3月31日現在

収入の部	(単位:円)		支出の部	(単位:円)
1. 会費収入	58,149,000		1. 事業費	27,103,448
郵便振込分 5,928名	51,789,000		三四会賞北里賞関係費	3,587,843
信濃町勤務分 690名	5,520,000		名簿送料費	140,155
新入会員分 105名	840,000		会報発行費	12,233,464
2. 入会金(93回生・特)	840,000		会報送料費	4,259,547
3. 新聞購読費	300,000		広報費(ホームページ)	3,517,542
4. 刊行物収入	2,690,000		広報費(ホームページ)制作準備費	1,500,450
名簿代	55,000		卒後臨床セミナー	500,000
広告代	2,635,000		学生後援費	127,197
5. その他の収入	15,188		海外研究者との交流費	321,160
利息収入	15,188		その他の事業関係費	373,680
雑収入	0		2. 会議費	1,520,430
寄付金	0		役員会費	441,383
			支部会議費	1,079,047
			3. 事務費	11,239,587
			給料手当	3,645,557
			福利費	306,228
			交通費	99,028
			支払手数料	484,306
			備品費	0
			事務委託費	119,706
			消耗品費	170,839
			印刷費	829,669
			通信費	1,282,762
			図書費	0
			業務委託費	3,039,003
			支払報酬	378,500
			雑費	474,761
			4.退職積立	100,000
			5.赤倉山荘特別会計繰入金支出	2,300,000
			6.医学部振興資金特別会計14年度分繰入金支出	10,000,000
			7.予備費	500,000
収入合計	61,994,188		支出合計	53,228,205
前年度繰越金	82,237,083		翌年度繰越金	91,003,011
総合計	¥144,231,270		総合計	¥144,231,270

以上の通り決算報告致します。

平成17年5月13日
経理　山本　修三
経理　末岡　浩
経理　渡辺　真純

以上の決算報告を監査の結果承認致します。

平成17年5月13日
監事　高田　昌
監事　小佐野　満
監事　比企　能樹

-5-